

2021.1

vol.3



Diversity & Inclusion

～ “いのちのつながり”に貢献する医療、研究のために～

Message

ダイバーシティ推進は組織にも社会にもメリットあり

「女性が活躍する社会」というテーマが大きく掲げられて以来10年以上経過しているにもかかわらず、相変わらず管理職の女性の数は少ないのが現状です。経済への参加機会や参加度、健康と生存、教育達成度、政治的エンパワーメントなどを指標に出されるジェンダーギャップ指数は、2019年度は世界153か国中121位で前年より後退しました。初等教育や保健分野では平等にもかかわらず、政治・経済への参画が著しく不平等という状況は全く改善されないまま。世界の中で出遅れた感のある日本ですが、問題はこうした状況が問題だととらえていない人が多いことでしょう。

企業の管理職だけではなく、大学や研究機関でも管理職になる女性の数は少ない状態です。女性が管理職なることをめぐっては、ネガティブで根拠のないさまざまな情報があふれているのも相変わらずです。例えば「女王蜂症候群」。1970年代注目されましたが、女性は管理職になると後輩の女性を蹴落として自分だけが君臨する傾向があるとされているものです。「女の敵は女」という内容のドラマもよく見かけます。

女性の管理職は少ないので注目されることが多く、その注目された一人がたまたま後輩女性を蹴落とすようなことが起こると、「だから“女性管理職”は女王蜂」というレッテルを貼ってしまうことになるのでしょう。男性の管理職はたくさんいるので、その中に後輩を蹴落とす男性管理職がいても「男性上司は後輩を蹴落とす」ということにはなりません。出世争いをする男性たちを見るのも日常的ですが、後輩を

蹴落としていたり、出世を妨害して怪文書を飛ばしたりする男性がいても、それはその男性個人の問題となり、「あの人」はボス猿だね」などといわれます。つまり、女性管理職は数が少ないために、そのような資質を持つ人が一人でもいると、すべてがそうだと



日本医科大学
特任教授 海原 純子

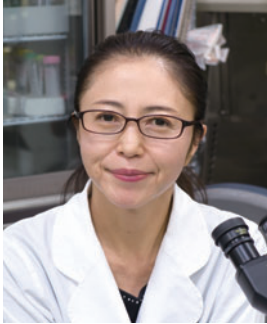
レッテル貼りをされやすく、個人の資質としてではなく「女性全体」の問題としてとらえられてしまう。統計的には根拠のない推測が独り歩きしているといえるでしょう。

実際、アメリカのメリーランド大学の教授が20年にわたり女王蜂症候群の検証を行ったところ、ダイバーシティが進んだ企業で女性がCEOに就いている場合、男性がCEOに就いている企業よりも女性が上級管理職に就く割合が高かったそうです。

日本の場合、かつての男女役割分担意識から抜けられない人がいまだに多く、このことが若い世代に心理的なストレスを与えていることもしばしばです。女性が継続して働き、能力や技術を向上させていくことは、組織にとっても、社会にとっても大事なことです。そのために物理的な支援はもちろん、それだけではなく、情報による支援・心理的支援を進めることが必要でしょう。

Message

研究を辞めないで続けるための支援を



日本医科大学
微生物学・免疫学教室
講師 若林 あや子

現在、教室で食物アレルギーや腸管炎症の研究に携わりながら、しあわせキャリア支援センターで育児期の先生方へのサポート等を行っています。小さな子どもを育てながら研究・教育・臨床を続けていくのは大変なことです。女性教職員だけでなく、育児期の子どもを持つ男性教職員に対しても、この一時的に大変な時期のサポートをすることは大切です。大学や病院の大切な業務を担う若い世代の方々にも声を上げていただいて、具体的にできることを形にしていきたいと考えています。研究結果は一朝一夕では得られず、多くの時間と労力を要します。研究を途中で辞めてしまうと、新たな発見に至りません。このため、家庭の事情などで研究の継続を断念せざるを得ない研究者に寄り添っていくような支援は、必ず大学全体の研究力の向上につながると信じています。

研究結果がひいては治療や予防の礎となり、様々な症状や疾患で苦しんでおられる患者様が一人でも減ることを願っています。女性が働きやすい環境というのは、全ての教職員にとって働きやすい職場であると考えます。

本事業を通じて、法人全体の働きやすさと研究力が向上し、患者様にもより一層喜んでいただけるようになればと思います。

動物をもっと身近にできる社会のために



日本獣医生命科学大学
獣医学部獣医学科 野生動物学研究室
講師 田中 亜紀

動物虐待や災害時の動物の扱いなどをテーマに研究しています。留学した米国では、育児をしながら研究するのは普通のことでした。上司は男性で、お互いに子どもを迎えに行くため15時半ごろにエレベーターで一緒になっていました。帰国後、日本では研究者が行う事務作業が多く驚きました。育児中なので、支援員配置制度はとても助かっています。研究に集中できる時間や学生とのやり取りも増やすことができました。

米国では、動物を飼うこと、動物が社会にいることは普通でした。日本では、避難所にペットを連れて行こうとすると問題になりがちです。一定の区分けは必要ですが、もっと動物が社会の一員になっていれば、避難所でも排除されることにはならないと思うのです。研究留学は、行って良かったです。日本にはない獣医学や、研究分野が多くありました。一度は世界を見たほうがいい。やりたいことを制限せず、一歩踏み出してみるだけで、見えなかった選択肢がたくさんあることに気付けます。結婚や出産をキャリアをあきらめる理由にしないでいいと思います。私の姿を見て、育児があっても続けられると思っていただきたいです。

保育支援制度で夫婦で仕事との両立が可能に



日本医科大学付属病院
消化器外科
助教・医員 川島 万平

私は肝胆膵外科を専門としており、他大学の皮膚科に所属してフルタイム勤務する妻との間に幼稚園に通う4歳の子供がいます。一流の外科医、夫、そして父親になるべく日々奮闘しています。

当初は夫婦で平等に家事・育児をこなして仕事との両立を目指そう!と息巻いておりましたが、実際は私の帰宅が遅くなってしまう、妻への負担が大きくなっているのが実情です。妻には申し訳ないと常々思っており、家庭内の空気も不穏になりがちに——。何とか現状を打開できないかと考え、付属病院への転属を機に保育支援制度に申し込みました。主に子どもの幼稚園へのお迎えから、両親の帰宅までのシッターをお願いしています。

お陰で心に余裕を持って仕事ができるようになり、夫婦ともに仕事との両立が何とかできるようになりました。家庭にも平和が訪れた気がします。この形が正解なのかはわかりませんが、少なくとも保育支援制度がなければ仕事をセーブすることも考えなければならなかったでしょう。子どもを持つと、仕事と子育ての折り合いの付け方に悩まれる方も多いと思います。保育支援制度という選択肢があること知っていただき、高い志を持ちながら意に反してキャリアを中断してしまう人が一人でも少なくなることを願っています。

活動報告

ダイバーシティ研究環境実現 キックオフシンポジウムを開催

2020年8月29日、橘桜ホールにて本事業のキックオフシンポジウム「始まります、私たちのダイバーシティ」を開催しました。

塚原月子氏による基調講演「One Health実現に向けて ～ダイバーシティとインクルージョンの推進～」では、「組織の目標・ビジョンに共感して連携しよう」という思いと、「自分本来の個性を存分に発揮できると感じられる状態」であることを一人ひとりが実感できる組織であれば、創造性を高め、発展を継続できることを、分かりやすくお話いただきました。

続くパネルディスカッション「ダイバーシティ研究環境実現のために必要な支援を考える」では、本事業で実施する「研究支援員配置制度」を活用した女性研究者の率直な意見が交わされました。研究への支援を受けた感想、子育てと研究の両立における葛藤や喜び、今後のキャリア展望などについてお話があり、日医大・弦間学長、獣医大・清水学長からは女性研究者への期待と励ましを込めた温かいコ

メントを頂きました。

参加者からは、「今後の事業展開を期待する」「ダイバーシティに係る様々なことについてディスカッションしてほしい」「支援の周知が必要」などのご意見を多くいただき、本事業とその取り組みへの関心の高さを感じました。

プログラムを通して、改めてダイバーシティとインクルージョンの推進が個人と組織にとって大きな価値をもたらすことを実感しました。また、研究者が活躍するための支援や仕組みに関する課題も明らかになりました。本シンポジウムで得たことは今後の事業展開に反映し、充実した支援と情報発信を進めて参ります。

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課の有蘭文博氏にお越しいただき本事業についてのご説明頂きましたこととともに、コロナ禍において有意義なシンポジウムを開催できたことを、関係各位に深くお礼を申し上げます。



株式会社カレイディスト 代表取締役
塚原 月子氏

時間	内容	登壇者
13:00-13:20	開会挨拶	塚原 月子 (株式会社カレイディスト) 弦間 学長 (日医大) 清水 学長 (獣医大)
13:20-13:25	基調講演「One Health 実現に向けて～ダイバーシティとインクルージョンの推進～」	塚原 月子 (株式会社カレイディスト)
13:25-13:40	事業概要説明・懇話会	弦間 学長 (日医大) 清水 学長 (獣医大)
13:40-13:50	休憩	
13:50-14:50	パネルディスカッション「ダイバーシティ研究環境実現のために必要な支援とは？」	塚原 月子 (株式会社カレイディスト) 弦間 学長 (日医大) 清水 学長 (獣医大) 有蘭文博 (文部科学省)
14:50-15:20	閉会	塚原 月子 (株式会社カレイディスト)

プログラム



パネルディスカッション

日獣大、ダイバーシティ実現へインタビュー冊子を作成

ダイバーシティの目標の一つに掲げられるOne Health実現には、「協力しあえる日常」に向けて教員一人ひとりがそれぞれの立場を知り、理解を深め、共感できる寛容の精神を育てることが必要です。日本獣医生命科学大学は、男女教員を対象に2020年3月にダイバーシティ研究環境の実現に向けて教員へ実施したインタビューを実施。このほど、その内容をまとめた冊子が完成し、教員へ配布しました。

冊子には、家庭と仕事のワーク・ライフ・バランスに対する教員25名(女性14名、男性11名)の多様な考えや日頃感じることなどを掲載。さまざまな年齢層や職位の教員が、出産・育児や介護といかに向き合い、または向き合ったかについて、経験を基にした価値観や大学における支援・補助体制のあり方に対する率直な意見が語られています。



冊子では、この20～30年間の女性研究者をめぐる情勢の変化や国外のライフスタイルとの比較にも触れています。教員のワーク・ライフ・バランスの実践が、学生にとってのロールモデルにもなり、未来のダイバーシティ推進に向けた重要な芽となることが期待されます。

Information

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブでは、参画各組織のダイバーシティ推進に向けて以下の取り組みを実施しています。



各種支援制度

病児・病後児及び休日勤務時等の 保育支援制度 M V 支

研究活動と育児の両立を支援するために、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育を利用する際の利用料金の一部補助を行います。

産学横断型メンター相談、 産学横断型キャリア相談窓口 M V A 支

研究者の皆様の、仕事を続ける上で感じる不安や、将来について相談したいことをメンタリングや相談を通じて支援します。

英文校閲費用補助制度 M V 支

女性研究者の研究力向上とキャリアアップの推進を目的に、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成します。

短時間勤務制度を利用する 育児中の医師の支援 M

制度を利用する医師が、通常の就業形態への復帰など、自分の描くキャリア形成を実現するための支援です。



講座・講演の視聴

※学内ICTサービスユーザIDと学術ネットワークで利用のパスワードが必要です。



お知らせ

英語科学論文の書き方講座 M V A 支

英語科学論文の執筆経験の少ない若手の研究者から論文指導をする立場の研究者まで、どなたにも役立つ内容です。

留学支援 M V

研究力向上にむけて海外留学を支援するための情報提供等を実施しています。

リーダーシップ& マネジメント養成講座 M V A 報

「ダイバーシティ時代を共に生きる」(渥美雅子先生 弁護士)「三菱地所ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みについて」(森下朝日太郎先生 三菱地所株式会社)。法的な観点ならびに企業の具体的な実践事例について講演をいただきました。

図書の貸出 M V A 支

キャリア形成や研究力アップ、育児や介護の書籍を多数取り揃えています。

村木厚子氏 講演会を開催 M V A 知

2021年3月27日(土)開催

村木厚子氏を講師に迎え、講演会を開催します。

【実施機関】 M …日本医科大学 V …日本獣医生命科学大学 A …アンファー株式会社

【ホームページに記載がある情報】 支 …支援制度 報 …活動報告 知 …お知らせ

詳細、お申し込みなどは
One Healthのウェブサイトをご確認ください

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

【代表機関】日本医科大学 【共同実施機関】日本獣医生命科学大学 アンファー株式会社

【編集・発行】学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131

one-health.jp

